

9 古文1 古典の仮名遣い

組	
番号	
氏名	

1 次は、「竹取物語」の冒頭の部分です。――部をそれぞれ現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつよろづのことに使ひけり。名をばさぬきの造となおいひける。その竹の中にもと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてみたり。



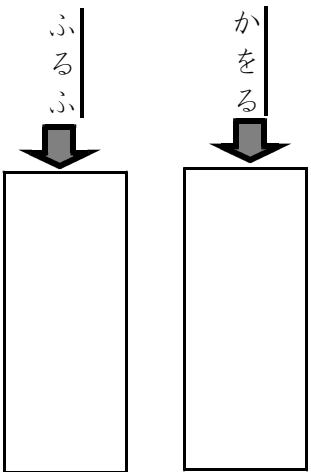
※平成20年度 全国学力・学 習状況調査	
「いふ」	
県	93.3%
全国	91.9%
「みたり」	
県	82.9%
全国	81.7%

2 次は、「鯉のぼり」の歌詞の一部です。――部をそれぞれ現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

鯉のぼり

い^{注1}らかの波と雲の波
重^{注3}なる波の中^{注2}空^{なかぞら}を
た^{注3}ちばな^なか^かを^をる^る朝風^{あそかぜ}に
高^{たか}く泳^{およ}ぐや鯉^{こい}のぼり
開^{ひら}ける^の広^{ひろ}き^の口^{くち}に
舟^{ふね}をも^の呑^のまん^の様^{さま}見^まえ^えて
豊^{とよ}かに^のふる^のふ^の尾^おひ^ひれ^れに^は
物^{もの}に^の動^{うご}ぜ^のぬ^の姿^{すがた}あり

(文部省『尋常小学唱歌』による。)



※平成19年度全国学力・学 習状況調査	
「かをる」	県 89.9%
「ふるふ」	県 75.9%

- 注1 いらか||かわらぶきの屋根。
- 注2 中空||空の中ほど。
- 注3 たちばな||ミカン科の木。初夏に白い花をつける。